まちづくり・生涯学習情報誌

らしっく

自分らしく、粋なくらし

Vol.62
花曇号
2022.3

はなぐもり／桜の咲く季節に空一面がぼんやりと曇り、景色がけむってのどかに見えること。ときには霧や雨をともなう場合もある。明るい曇り空をさすことが多い。

CLOSE UP

大学生による さまざまな 地域活動

宮島てらこや

広島県内の大学生を中心に「子どもが育つ、大人が育つ、地域づくり」を目指し活動

若旅促進プロジェクト

若者視点で旅行の魅力を発見発信、地方創生・地域活性に積極的に取り組む

学生団体STYLE

若い力で広島を盛り上げる地域活性化のためのさまざまな活動

連載

▶らしっくコラム 「紙屋町シャレオ西通り活性化プロジェクト」広島工業大学学生参上！
▶若い力をプラザは応援します!! ▶ようこそ！公民館へ～安佐南内公民館～
▶人材バンク 名人 宝人 達人 ▶Hm助成支援団体のご紹介 ▶情報の森 ▶プラザ通信

特集1

広島県内の大学生を中心に「子どもが育つ、大人が育つ、地域づくり」を目指し活動

弥山の山登りの様子

CLOSE UP

大学生によるさまざまな地域活動

コロナ禍で、多くの制約がある中、私たちは生活しており、若者も貴重な青春を満喫できずにいる人も多くいます。
今回はそんな中でも積極的にさまざまな活動をする大学生の団体を紹介します。

宮島てらこや

https://www.instagram.com/miyajimaterakoya/

貢献・成長・つながりを大切に、子どもたちとの交流を通して学生が担う地域づくり

平成15年に活動を開始した「NPO法人鎌倉てらこや」をモデル事業とし、今も日本各地に広がり続ける「NPO法人全国てらこやネットワーク」に加盟する2番目の団体として「宮島てらこや」は平成18年に設立されました。

▲ 代表の寺山ももさん

広島県内の大学生を中心に、小学生と本気で向かい合い、世界遺産の宮島をメインフィールドに、日本・広島・宮島の自然や伝統文化を共に学び体験し「貢献・成長・つながり」を大切にしたボランティア活動を続けています。現在は、広島修道大学と広島女学院大学の学生を中心に約80人の学生が在籍しています。

「主な活動は、一年間に、半日をかけるイベントを4回、1日をかけるイベントを1回。そして1泊2日のお泊りイベントを宮島・大聖院を舞台に開催。各準備を行うミーティングを毎月3回程度開いています」と代表を務める寺山(てらやま)ももさん。「子どもたちとの交流を通して多様な可能性を引き出す複眼の教育」「さまざまな体験を通して感じてもらう感動体験」「さまざまな人との出会いを大切する良き人との出会い」この3つの理念を心掛けて子どもたちと接しています。

▲ 副代表の馬場真樹也さん

「1年生の時はイベントに参加して経験を積み、2年生になるとメンバー全体を複数のチームに分けて実施するイベントのサブリーダーとして、チームを引っ張っていきます。3年生になるとイベントをまとめていきます。実際に子どもと関わったり、多くの人の前で話をしたり、ふだんの大学生活ではなかなか経験できないことが多いので、自分の力量を把握でき、自身の成長にも役立っています」と副代表の馬場真樹也(ばばまきや)さん。

▲ ハロウィンイベント準備の様子

これまでも、市内電車を使ってチームで駅間を移動しながらポイントを競い合うゲームや、宮島の弥山に登ったり、ハロウィンやクリスマスなどを楽しむイベントを開催しています。

コロナ禍に抱える課題

コロナ禍前は、子どもや保護者からの認知度も高まり、てらこやが開くイベントの問い合わせも増えて彼らに寄せる期待が高まっていたそうです。しかし、満足に活動できていないここ2年間の状況をいかに打破するかが、メンバー間で今後の課題になっています。

「新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあってなかなかイベントの開催が出来ず、また、準備をしても土壇場で中止になったり、事前のPRもできなかったり。子どもたちと触れ合う機会も減って、メンバー自身もストレスを抱えています。そんな中、それぞれがいかにモチベーションを保ち続けることができるのか、乗り越えていかないといけない課題のひとつです」と寺山さん。

メンバーは、大学4年生になると後輩にバトンタッチ。毎年春からは心機一転の新体制でスタートします。先輩から受け継いだてらこやの教えを胸に、また新たな活動が始まります。今後も、子どもが育つ、大人が育つ、地域づくりを目指して子どもたちと向き合う若い力に、大いに期待したいと思います。

▲ メンバーの皆さんとイベントに参加した小学生たち

らしっく
自分らしく、粋なくらし
Vol.62
花曇号
2022.3

contents

01 特集
大学生によるさまざまな地域活動
▶宮島てらこや

市内電車を使ったイベントの様子

▶若旅促進プロジェクト

現地視察：瀬戸内海（広島県竹原市沖）でSUP体験（令和3年11月）

▶学生団体STYLE

グリーンレモン初収穫の様子

05 らしっくコラム
▶「紙屋町シャレオ西通り活性化プロジェクト」広島工業大学学生参上！
広島工業大学
平田 圭子 教授・博士（工学）

若い力をプラザは応援します!!

06 ようこそ！公民館へ
▶安佐南内公民館

07 人材バンク　名人 宝人 達人
▶ハワイアンリトミック講師
浦上 佳奈さん

09 Hm²助成支援団体のご紹介
▶明田フォトプロジェクト
▶特定非営利活動法人広島市要約筆記サークルおりづる
▶広島なずなの会
▶団地の法面を彩る会

11 情報の森

15 プラザ通信

※掲載している各団体への問い合わせは発行者である（公財）広島市文化財団まちづくり市民交流プラザまでお願いします。☎082-545-3911

若者視点で旅行の魅力を発見発信、地方創生・地域活性に積極的に取り組む

若旅促進プロジェクト

事前準備と現地視察で地域の魅力アップ

平成23年、若者の旅離れが進んでいるとの観点から、広島経済大学の学生が若者視点のツアー企画を発案。国際交流・社会貢献・地域活性・経済活動などの分野で、学生が企画・実行など全般において主体的に活動する、同大学の「興動館プロジェクト」の一つとして、中国運輸局と連携して始まったのが「若旅促進プロジェクト」です。

令和3年からは、プロジェクトの目的を地方創生に定め「観光による地方創生」「若者向けの旅行の商品化」「若者の旅行需要の促進」の3つを重点的に取り組んでいます。

現在37人の学生が参加。「メンバーを5つのグループに分け、それぞれのグループが広島県、山口県、岡山県、鳥取県の若者視点の旅行プランや地方創生に関する企画について、週1回集まって検討しています」とリーダーの西野紗也加（にしのさやか）さん。

まずは対象となる地域の情報を、事前にインターネットなどで収集、そして実際に現地を訪れて生の情報をプラス。こうして情報の精度・価値を高め、より地域の魅力が伝わるようにしています。さらにSNSなどを使って情報発信。他県からも訪れてもらうためにも取り組んでいます。また、メンバーの中には、対象となる地域以外の出身者もいて、外からの視点で客観的な意見を反映するメリットも生まれています。

プロジェクトを通して学生が成長

コロナ禍のここ2年は県外移動の自粛など活動にも制約があり、実際に視察に出向くにはハードルが高く苦労もあります。そのような中でも、広島県の学生に県内を旅してもらう「広島ツアー」などを企画。毎年3月には、中国運輸局や連携している旅行会社の担当者を招いて、若旅促進プロジェクト活動報告会を実施。実際にプランを商品化できるか可能性を探っています。

▲ 若旅促進プロジェクト活動報告会の様子（令和2年3月）

「今は、なかなか現地に行けないのが課題です。できるだけ現地の観光協会等とも連携を図り、観光プランを作っています。メンバー自身、それぞれが楽しみながらプランの策定などにも取り組んでおり、会議等で自分の意見を積極的に発言できるようになっています。さらに、中国運輸局をはじめ、行政、企業との関わりを持つことで、一人の社会人としての成長にも繋がっています」と西野さん。そんな学生たちを大学側は「学生生活をおくる上で、後悔が残らないように、全力で活動に取り組んでほしいと思います。全力で取り組んだからこそ得られる経験や共に汗を流した仲間たちの存在は、今後の人生を『自信を持って』切りひらいていくうえで、大きな力になると信じています。支える側として、学生一人一人の『想い』を聞き、大切に取り扱いたいと思い、そのために大学側と学生がお互い本音で話ができるよう、日頃からコミュニケーションを大切にし、信頼関係を築くことを意識しています。これからも、データや資料などの根拠に基づいたアプローチと、既成概念にとらわれない斬新な発想や旺盛なチャレンジ精神を駆使し、多くの仲間とともに社会課題の根本的な解決を目指して、学生らしく全力で活動してほしい」とエールを送っています。

▲ モトフサ現代美術館（鳥取県岩美郡岩美町）で因州和紙のオブジェ作成する様子（令和3年12月）

▲ 現地視察：瑠璃光寺（山口県山口市）で現地のボランティアガイドの方に説明を受ける（令和3年11月）

若い力で広島を盛り上げる　地域活性化のためのさまざまな活動

学生団体STYLE

レモン栽培を通した地域の人々との触れ合いでものづくりの基本を学ぶ

学生団体STYLEは「若い力で広島を盛り上げる」をモットーに、地域活性化を目的として平成24年に設立されました。先輩方の志を受け継ぎながらの活動も今年で10年目。現在は、代表の古瀬凌太郎（ふるせりょうたろう）さん（広島工業大学）をはじめ、SNSで集まった広島の8つの大学に在学している23人で活動しています。

主な活動は、農作業や出店販売、商品開発、レモン販売、地域交流など。平成28年からは、呉市大崎下島にある末岡新果園さんの協力のもと、耕作放棄地だった農地を一年かけて整え「STYLE農園」としてレモン栽培をスタートさせました。令和3年には待ちに待ったレモンの初収穫を迎え、「大長レモン」として販売も実現。収穫までの5年間はお世話になっている農家さんの農地整備や収穫など積極的にお手伝いに通い、「ものづくりの生の声」を聞き、学びました。「農家の方々には、いろいろなことを教えていただき、経験談など貴重な意見がレモン栽培の参考になりました」と話す古瀬さん。レモン栽培を通して「実際に人と人が触れ合い、その中で生まれてくる関係性や信頼のもと、「STYLE農園」での活動は成り立っていると深く感じています」と、感謝の思いを口にします。

▲ 学生たちで考えた大長レモンのパッケージ

▲ 瀬戸内海をバックに収穫を喜ぶ

また他にも、佐伯区湯来町での野菜作りをはじめとした地域交流など、ジャンルにとらわれないさまざまな活動をしています。

収穫まで5年こだわりのレモンを販売

耕作放棄地をゼロから整え、5年目となる令和3年の秋、ようやく出荷できるサイズに育った「大長レモン」は、防腐剤、防カビ剤、ワックスは一切使用していない低農薬。皮まで安心して食べられる自信作。HPで販売しており、注文が入ってから収穫し出荷するというこだわり。これは、「自分たちで育てたレモンを少しでもおいしく食べてもらいたい」というメンバーのポリシー。農園では除草作業や害虫駆除など、慣れないことも多いとはいえ、それさえ農業の楽しさ、尊さになっていると言います。

▲ グリーンレモン初収穫の様子

「ボランティアといっても、自分たちが一番楽しんでいる」と、笑って話す姿が印象的な学生たち。「異なる大学のメンバーとの交流はいろいろな発見があり、とても刺激になっています。時には意見の相違で衝突することもありますが、みんな目指す方向は同じなので、よりよい活動にするためには必要なことだと思います」と古瀬さん。その話を裏付けるように、彼らが発信するSNSには輝く笑顔で溢れています。これからは更なる地域活性化を目標に「広島産のレモンをもっと身近に」とのコンセプトのもと、「レモンを使ったアレンジ料理や商品を発信していきます!」と、意気込みを語ってくれました。

▲ 上多田集落（佐伯区湯来町）で餅つきのお手伝い